

国語科学習指導案

指導者 小塙 卓哉 青 ちづる

一 日 時 平成二十八年十二月七日（水） 第二限
 （「古典」の授業を「国語総合」「現代文B」で扱う短歌教材の授業に充當して行う。）

二 学 級 第二学年一組（男子十七名 女子二十五名）・文系クラス

三 場 所 二年一組教室

四 単 元 短歌の創作及び自己批評、相互批評。

五 単元の目標

「国語総合」における「話すこと・聞くこと」の指導事項に基づき実施。
 ア話題について様々な角度から検討して自分の考えをもち、根拠を明確にするなど論理の構成や展開を工夫して意見を述べること。

六 イ 目的や場に応じて、効果的に話したり的確に聞き取つたりすること。

（1）自分の短歌について、作品のテーマと表現上の特徴を要領よく述べる。（「言語活動例」のア）

（2）相手の作品の内容を時間内で理解し、そのテーマや表現について意見を述べる。
 意見を求められた側は、相手の意見に対する自分の考えを述べる。（「言語活動例」のウ）

七 単元の具体的な評価規準

（1）短歌道場のルールに従つて、時間内に自分の短歌を説明している。

（2）相手の作品に対して時間内に自分の考えをまとめ意見を述べている。

八 指導観

（1）単元観

短歌の創作にとどまることなく、短歌道場形式に従うことで、相互批評を通して、豊かな鑑賞力を養うことができる。

（2）学習者観

話し合い、学び合い活動に中学時代から習熟している生徒が多く、短歌道場形式に慣れることで、自作の魅力、他者の作品の魅力について自在に語っている。また相互批評の基になる短歌作品についても意欲的に作成している。

（3）教材観

短歌道場形式は慣れるまでに時間がかかるが、実践を通してすぐに習熟することが可能である。トーナメント形式を採用することで、ほとんどの生徒が審判を経験するので、他者評価を真剣に行うことが可能である。

九 単元の指導計画

第1時間	時 次	学習活動	言語活動に関する指導上の留意点	◆評価規準 ◆評価方法
1	1	<ul style="list-style-type: none"> ・短歌道場のルールについて理解する。 ・自分の歌の解釈、他の者の歌の解釈の仕方を理解する。 ・トーナメントの第一 	<ul style="list-style-type: none"> ・剣道の試合になぞらえて説明する。 ・実際に教師二人で先攻の先鋒の部分の対戦を実演してみせる。 ・一つのチームの先鋒戦を行い、実 	<ul style="list-style-type: none"> ◇（一）（二） ◆短歌をワクシ出させる。

1 第2時間	試合を実施する。	職に応じて審判の仕方を確認する。	◇ (一)(二) ◆ 対決に使用した 短歌、判定用紙、振 り返り用紙を回収す る。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第二試合から第四試合までを実施。 ・ 自分の試合がなくなつた生徒は、ギヤラリ―として集中をさせる。 ・ テンポよく実施をする。審判は正確に判断し、記録する。 ・ 決勝戦では、ギヤラリ―にも判断をさせ審査の参考とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 合までを実施。 ・ 自分の試合がなくなつた生徒は、ギヤラリ―として集中をさせる。 ・ 決勝戦では、ギヤラリ―にも判断をさせ審査の参考とする。 	

十 本時の目標
第一次に行つた対戦の仕方に基づき、時間内で第二試合から第四試合までを実施する。

十一 本時の評価規準
短歌一首について、自作を説明し、相手の作品について、自分の考えを論理的に表現しようとしている。(「指導事項」のア、イ)。

十二 本時(全二時間中の一時間目)の指導

学習段階 導入 3分	学習内容 ・ 本時の進め方を確認する。	学習活動 ・ 教師から決勝までの進め方について確認する。	言語活動における指導上の留意点 ・ 各班の準備状況を確認する。
展開 45分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第二回戦 ・ 第三回戦、 (決勝) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 対戦が進むにつれて、歌を差し替えることも可能とする。 ・ 第三回戦以降は三人ずつの対戦とする。 ・ 審判は第一次よりも機敏な審査を心掛ける。 ・ 試合、審判のない生徒は、聴衆としてしつかり対戦を観戦し、どちらかに手を上げられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各班の準備状況を確認する。 ・ 発表が円滑に進行するように観察・補助する。
終結 2分	・ 本時の学習振り返り。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 振り返りシートを配布し、次回までに記入しておくよう指示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 記述の確認(短歌を書いた用紙、判定用ループリック用紙) ・ 振り返りシートの質問項目について説明する。

十三 御高評

短歌道場形式の授業について

- 1 実施クラス（実施者 小塩、青 TTで行います。）
2年1組 12月6日（火）4限 12月7日（水）2限
2年2組 12月5日（月）5限 12月6日（火）6限

- 2 実施内容
1限目 短歌の作り方及び短歌道場の実施方法の説明
短歌道場1回戦（トーナメント方式）
2限目 短歌道場 2回戦から4回戦（決勝）

- 3 1限目までに準備して欲しいこと
1～2首短歌を創作してきてください。
班を決めておいてください。
男子は、5人の班が1つ、6人の班が2つ
女子は、5人の班が5つ

----- きりとり線 -----

班名	
氏名 班長	
氏名	
氏名	
氏名	
氏名	

【作品】

- ・自由に班の名前をつけてください。
- ・班長を決めてください。
- ・室長副室長で、今週中に完成の上、提出のこと。

まきなん短歌道場ルール一覧

- ・5人1組で1チームとして参加できます（※チームの中の誰かが二人分発表すれば3人や4人での参加することもできます。）
- ・6人のチームは、一人は控え選手となります、控え選手の作品を必ずエントリーしてください。また、勝ち上がる中で選手交代してください。



＜試合＞

- ・5対5によるチーム戦を行います。
- ・1対1の対戦が先鋒戦、次鋒戦、中堅戦、副将戦、大将戦と5回あります。
- ・試合開始前に先鋒戦の先攻と後攻をじゃんけんで決めます。じゃんけんで勝った方が先攻か後攻か好きな方を選んでください。
- ・先攻、後攻はそれぞれの対戦で交互になります。

※Aチーム対Bチーム、じゃんけん→Aチーム勝利→先鋒戦先攻がAチームとなった場合

先鋒戦 先攻 Aチーム、後攻 Bチーム

次鋒戦 先攻 Bチーム、後攻 Aチーム

中堅戦 先攻 Aチーム、後攻 Bチーム

副将戦 先攻 Bチーム、後攻 Aチーム

大将戦 先攻 Aチーム、後攻 Bチーム

Aチーム

Bチーム

＼先鋒、次鋒、中堅、副将、大将／

＼先鋒、次鋒、中堅、副将、大将／



対



先攻、後攻、先攻、後攻、先攻

後攻、先攻、後攻、先攻、後攻

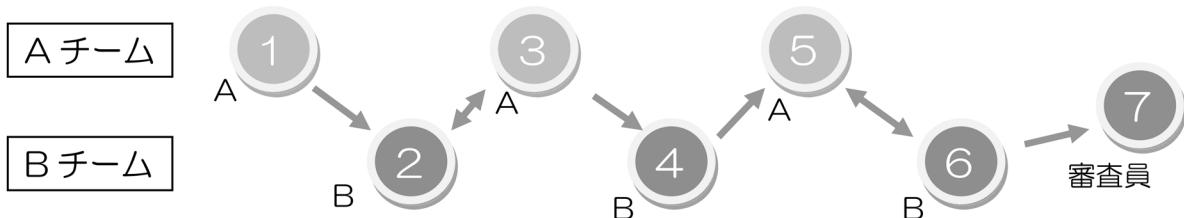
- ・審査は対戦終了後に勝敗を決定した上、評価基準表を提出してください。

＜対戦＞

- ・選手は事前に作成した自作短歌を用紙（当日配布）に書いておきます。
- ・対戦は1対1で行い、先攻から短歌の朗詠と解説、質疑応答を行います。

※Aチーム対Bチーム 先鋒戦 先攻 Aチーム、後攻 Bチーム

- ①A チーム：短歌の朗詠と解説（30秒）
- ②B チーム：質問や意見
- ③A チーム：応答（②と③合わせて1分）
- ④B チーム：短歌の朗詠と解説（30秒）
- ⑤A チーム：質問や意見
- ⑥B チーム：応答（⑤と⑥合わせて1分）
- （①～⑦を先鋒戦、次鋒戦、中堅戦、副将戦、大将戦と5回繰り返します）



＜使用する短歌について＞

- ・ 使用する短歌は、題詠です。題は、1組は「平和」、2組は「冬」です。当日までに作成してください。
- ※題詠の題は、そのまま短歌の中で使用してもよいですし、使用していなくてもそのテーマにあっていればよいです。
- ・

＜短歌の朗詠・解説について＞

- ・ 短歌の朗詠とは、短歌を声に出して読み上げることです。
- ・ 短歌の解説とは、その短歌について伝えたいことや工夫したことなどを説明することです。
- ・ 短歌の朗詠・解説をする際は立って発表しましょう。
- ・ 短歌の朗詠の際、事前に自作短歌を書いた紙を、査員や相手チームなどに見せましょう。
- ・ 短歌の朗詠・解説は大きくはっきりとした声で話しましょう。
- ・ 短歌の朗詠・解説は合わせて30秒です。

＜質疑応答について＞

- ・ 質疑応答とは相手の短歌について、質問や意見をいい、またそれに対して相手が答えることです。
- ・ 質問や意見、それに対する応答は、合わせて質疑応答として1分程度行います。
- ・ 1分間であれば何度質疑応答を繰り返してもよいです。
- ・ 質疑応答は大きくはっきりとした声で言いましょう。

＜審査・審査基準について＞

- ・ 短歌、朗詠、解説、質疑応答の様子、これらすべてを総合して審査を行います。
- ・ 各審査員が対戦ごとに勝敗を記入した評価基準表をもとに、審判が勝敗数を集計、チームとして勝敗結果発表を行います。勝敗判定はチームとして発表します。

審査員マニュアル

＜試合＞

- ・短歌道場では、先鋒戦から大将戦まで1対1の対戦を5回行います。
- ・1試合はおよそ15分程度です。
- ・試合中の審査は評価基準表に基づいておこなってください。

＜1対戦の流れ＞

○試合開始前、先攻後攻じゅんけん

○先攻チーム短歌の朗詠と解説… 30秒

↓後攻チームから先攻チームへの質問や感想

先攻チームから後攻チームへの返答 合計1分

○後攻チーム短歌の朗詠と解説… 30秒

↓先攻チームから後攻チームへの質問や感想

後攻チームから先攻チームへの返答 合計1分

この後、手際よく審査を行い、勝ったほうのチームの左上に○を入れて下さい。

上二段は朗詠と解説の時に✓し、下の四段は、質問や感想の時に行うとよいです。

対戦後、30秒以内に完了してください。

○五人の対決が済んだらチームの勝敗を、チーム名の□に✓して下さい

短歌道場 判定用評価基準(ループリック)

		チーム名()						チーム名()			
		5		1			5		1		
先鋒	作品の内容	独自の着想をしている	作者なりの発見がある	既成の作品の範囲である	①チーム名を記入してください。		作品の内容	独自の着想をしている			
	作品の調べ	調べが整っている	短歌形式を踏まえている	ぎこちない調べである			作品の調べ	調べが整っている			
	自作説明	自作の魅力を伝えている	自作について説明している	自作の内容を説明しきれなかった			自作説明	自作の魅力を伝えている			
	質問への応答	質問内容に対して明確に応答している	質問内容を理解している	質問内容に答えられない			質問への応答	質問内容に対して明確に応答している			
	発表態度	印象が鮮明で自信をもっていた	時間内に発表をした	時間を守れなかったり、言いよどんだりした			発表態度	印象が鮮明で自信をもっていた			
	テーマ詠	テーマをよく作品に活かしている	テーマを踏まえて作っている	テーマから逸脱している			テーマ詠	テーマをよく作品に活かしている			

②評価シートは1選手につき1枚あります。

チーム、順番を間違えて記入しないようにご注意ください

		評価記入欄						評価記入欄					
		5		3		1			5		3		1
次鋒	作品の内容	る	る	である			作品の内容	独自の着想をしている					
	作品の調べ	調べが整っている	短歌形式を踏まえている	ぎこちない調べである			作品の調べ	調べが整っている					
	自作説明	自作している	自作について説明している	自作の内容を説明しきれなかった			自作説明	自作の魅力を伝えている					
	質問への応答	質問内容に対して明確に応答している	質問内容を理解している	質問内容に答えられない			質問への応答	質問内容に対して明確に応答している					
	発表態度	印象をもつ	時間内に発表をした	時間を守れなかったり、言いよどんだりした			発表態度	印象が鮮明で自信をもっていた					
	テーマ詠	テーマをよく作品に活かしている	テーマを踏まえて作っている	テーマから逸脱している			テーマ詠	テーマをよく作品に活かしている					

		5	3	1
中堅	作品の内容	独自の着想をしている	作者なりの発見がある	既成の作品の範囲である
	作品の調べ	調べが整っている	短歌形式を踏まえている	ぎこちない調べである
	自作説明	自作の魅力を伝えている	自作について説明している	自作の内容を説明しきれなかった
	質問への応答	質問内容に対して明確に応答している	質問内容を理解している	質問内容に答えられない
	発表態度	印象が鮮明で自信をもっていた	時間内に発表をした	時間を守れなかったり、言いよどんだりした
	テーマ詠	テーマをよく作品に活かしている	テーマを踏まえて作っている	テーマから逸脱している

		5
副将	作品の内容	独自の着想をしている
	作品の調べ	調べが整っている
	自作説明	自作の魅力を伝えている
	質問への応答	質問内容に対して明確に応答している
	発表態度	印象が鮮明で自信をもっていた
	テーマ詠	テーマをよく作品に活かしている

		5	3	1
副将	作品の内容	独自の着想をしている	作者なりの発見がある	既成の作品の範囲である
	作品の調べ	調べが整っている	短歌形式を踏まえている	ぎこちない調べである
	自作説明	自作の魅力を伝えている	自作について説明している	自作の内容を説明しきれなかった
	質問への応答	質問内容に対して明確に応答している	質問内容を理解している	質問内容に答えられない

		5
副将	作品の内容	独自の着想をしている
	作品の調べ	調べが整っている
	自作説明	自作の魅力を伝えている

④評価得点を計算してください。